2017年3月期第1四半期 決算電話会議 質疑応答要旨

日時：2016年8月1日（月） 11：00～11：40

お断り：この要旨は、決算電話会議にご出席になれなかった方々の便宜のためにご参考として掲載するものであり、電話会議でお話ししたことの一字一句を書き起こしたものではありません。当社の判断で簡潔にまとめさせていただきました。ご了承ください。

- Q. 電子産業向けハードの受注高・売上高における半導体：液晶：電子部品の比率を教えてください。また、第2四半期以降の海外ハード受注について弱さは感じていないか。
- A. 比率については、受注高で2：7：1、売上高で3：6：1。海外ハードの今後については、特段弱さは感じていない。
- Q. 土壌浄化の伸びは一過性か、それとも持続性があるのか。
- A. 持続性の判断は難しいが、当社の強みである原位置浄化の分野でバイオ系の新技術も発表しており、今後も順調な伸びを期待している。
- Q. コンビナート系の工場について老朽化設備の更新需要は期待できるのか。また、電力向けはまだ弱いのか。
- A. 今後、コンビナート系の老朽化設備の更新投資は必ずあると期待しているが、足元ではまだ好調とは言えない。一般産業向けの中では、官公需系のメンテナンスは伸びた。電力向けは売り上げの計上に波があり、第1四半期は工事の遅れにより減収となった。
- Q. KEAGの前第1四半期が3カ月分あったとしても、当第1四半期はクロスセルの効果などで伸びているのか。
- A. 現地通貨ベースで前年同期並み。シナジーも一部には出ているが、その分が上乗せされたとは言えない。
- Q. KEAGの第1四半期の実績を教えてください。前第1四半期の利益は遡及修正しているか。
- A. 当第1四半期は、受注高・売上高が約55億円、営業利益がほぼ収支トントン。前第1四半期の営業利益は、取得原価の遡及修正後で6億円の赤字。
- Q. 超純水供給事業の最大顧客から契約を解約されるリスクはあるか。
- A. 契約上、解約は可能。その場合は、解約金をいただいて設備はお客様のものになる。
- Q. 解約以外のケースとして、基本料金の変更や従量料金の単価の変更などもあるのか。
- A. 以前に一度、契約期間中の収益を確保しながら契約期間を延長し、単年度の料金を上げたことはある。
- Q. 超純水供給事業の最大顧客とは現在交渉中なのか。今後、交渉相手を買収企業に代わることはあるのか。
- A. 一般的に言って、どの契約先とも交渉はいつでもある。交渉相手は現在の契約先。

- Q. 第1四半期の実績為替レートを教えてほしい。
- A. ドルが115円、ユーロが127円、元が17.6円。
- Q. 当第1四半期において、KEAGとそれ以外の海外薬品事業の現地通貨ベースの伸びはどれくらいだったか。
- A. KEAGで53%、それ以外で8%。
- Q. 海外薬品事業について、当第1四半期における地域別の現地通貨ベースの伸びを定性的に教えてほしい。
- A. ほとんどすべての地域で伸びた。
- Q. 当第1四半期の電子産業向け装置の営業利益は、海外事業の収益改善を超純水供給事業のメンテナンス・コストの増加がオフセットしたとのことだが、それ以外の要因はどうか。また、第2四半期もこの利益の傾向は継続するのか。
- A. 海外事業の収益改善と超純水供給事業のメンテナンス・コスト以外の影響は軽微。第2四半期も同様の傾向が継続すると見ている。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。